

## 議事録

<b>テーマ</b>	墨田区協治(ガバナンス)推進条例施行10周年記念 シンポジウム&タウンミーティング みんなでつくろう！すみだの未来 語り合おう！素敵なすみだの10年後
<b>日時</b>	令和4年2月19日（土）午前9時半～正午
<b>会場</b>	すみだリバーサイドホール2階イベントホール／オンライン（Zoom）
<b>参加者</b>	58名（会場：32名、オンライン：26名）

### ＜タウンミーティング＞

#### テーマ：素敵なすみだの10年後

**司会** タウンミーティングのテーマは、素敵なすみだの10年後。10年後、どんなすみだになっていて欲しいか、あるいは、素敵なすみだを実現するために、「協治(ガバナンス)」の知る力、つながる力、行動する力を発揮して、どんなことをしていきたいかについて、ご意見をいただきたい。

**区民A** 高齢者の一人暮らしの方について。私は区内で訪問医療マッサージの仕事をしているが、江東区の高齢の一人暮らしのお客様で、どんどん歩けなくなってしまって困っている方がいる。一人暮らしで情報が入らないということで、私が老人ホームを探したり、介護認定の再認定を地域包括支援センターにお願いしたりしている。金銭的、肉体的、環境的に厳しい方、高齢者、障がい者、シングルマザーなどの方も困りごとがあると思われる。国・行政で守られない一部の層があるので、今考えているのは、行政とそれから我々民間が連携するようなサービスをやりたいなと思っている。ボランティアもいいが、ボランティアはお金が発生しない点がある。民間では高額な自己負担になるため、具体的には1時間700円～900円くらいでできるといい。中央区ではあるようだが、もし墨田区ですでにあるのなら教えてもらいたい。なかなか恵まれない層に、行動できる層が協力や支援をしていくという体制を作りたいと思っている。

**区民B** 今度、東武の高架下で土地が増えるというか、有効面積が増えて、墨田区は何%かいただけるといった話を聞いている。福祉であるとか、子育て世代の集まれる場、気軽に入ることができるような場を提供していただけるといいなと思う。今は南北で分断されているところもあるので、南北の交流も含めて、押上、業平橋、とうきょうスカイツリー駅、曳舟、その辺りで交流ができる場ができるといいなと思っている。

**パネリスト 鎌形** 最初の方は、墨田区では「すみだハート・ライン21事業」というものがある。ご本人が江東区ということなのでそこがちょっとネックかなと思うが、江東区についても調べてみたらあるのではないかなと思う。2番目の方のご意見について、地域プラザは当初6ヶ所できるはずだったが、経済が全体的に低下したため、今は2ヶ所になっている。立派なビルを建てるというのではなく、ちょっと工夫することで、実態でも交流の場

を作ることができると思う。あるとすごく健康のためにもいいと思うので、ぜひ、区で少し工夫していただければ。

**区民C** 墨田区内の子どもたちの夢を叶えるために、支援できる地域の方を募る事業をしている。このコロナ禍でどこの地域もなかなか行事などができなくなっているが、逆にこういう時期だからこそ、子どもたちの夢を叶えてあげようということで始めた。例えば、今の小学1年生の子は10年後には高校生、5、6年生の子どもたちは成人を迎える。この支援で子どもたちの夢がどこまで実現するかわからないが、10年後にどこまで叶えられているのか非常に楽しみにしている。地域の力や、子どもとつながりのある人たち、子どもたちがつながりを持ったということは素晴らしいなと思っている。

ただ、このように何かをやるには非常に経費がかかる。今回は、すみだの力応援助成金を活用したが、可能であれば、区としても、こういう事業に対して助成金等を考えていただけるといいかなと感じている。

**区民D** 行動する・つながるということで、私は、何もないところから農園を作るという交流農園プロジェクトに、2017年からずっと関わっている。区の方にも多大な応援をいただいている。

墨田区は、農業委員会や農園がないという、非常に特殊な区の一つであると思われる。一方で、農業に関わる、土をいじるということは非常に癒されることで、皆、農園で毎日楽しく活動して交流している。

私が具体的に提案したいのは、墨田区には農業がないが、それを逆手にとった切り口として、鹿沼、鶴岡、小布施との都市交流があると思うので、その辺りとの交流をもっと強くできないかということである。その成果物としては、例えば子どもたちの給食に無農薬食材を届けるとか、それを鹿沼の皆さんが届けたいと言ってくれたりとか、そういう付属の成果も上がるのではないかと考えている。農業は外での活動になるので、フィジカルディスタンスと、ソーシャルコネクティングがまさに同時に達成されると思う。ぜひご検討いただきたい。

**パネリスト 小林** 例えば、地方都市は人口減少が激しい。住民の数は相当減ってきているわけだが、その中でどうやって活性化していこうかというところである。自治体に夏の間だけでも来てくれる人や、ふるさと納税を納めてくれる人がいる、そういう何らかのつながりを持っている都市部の人たちを関係人口というが、その人たちも一緒になって取り組んで、活性化しようという動きをしている町はかなりある。その関係人口でいいかどうかという点には課題があるかもしれないが、都市部の自治体とその地方の自治体が、そういう形で交流するという事は十分あり得る話だと思う。

もう一つ、今お話になった農業について、私は大賛成である。非常にすばらしい取り組みだと思う。工場の中で農業をやっているところもたくさんある。今や、土や非常に広い面積がないと農業ができないという時代でもない。農業自体が、科学的にもものすごく進歩

している時代である。私もいろんな農家へ見学に行ったり、農家レストランでランチを食べたりすることがあるが、農業に携わるということは、人間の根源に触れるようなところもあると感じる。いろいろな意味でのメリットが生じるのではないかと思うので、墨田区で振興される新しい形での農業という方がいいのかもしれないが、まさに10年を見据えた取り組みではないかというところで、ぜひやっていただければと思う。

**パネリスト 久米** 素晴らしい意見だと思う。私もiUの教員として、地方で年間数十回講演を行っているが、「ぜひ皆さんのお子さんも墨田区に」と言っている。皆さんの力もあって、墨田区はこの10年間でまちおこしが上手くいっているので、「すみだモデルを学んでもらい、地元に戻ってそれを普及してください」と。そして、シェアハウスに住むなど、皆さんと交流できる学生を増やすと、墨田区ファンになるだろう。そうするとつながりができて、墨田区の子どもたちで土や自然に触れていない子が交換留学のような形で地方に行く。逆に地方の人は工業がないから、町工場を見てもらうとか、そういう形で交流できたらいいと思っている。

そして農園問題、屋上緑化ができないかとか、あとは川沿い、また、ゲリラガーデニングも観光資源である。だからあれだけではなくて、公園・川沿いなどにお年寄りが自分の花壇をつくれるといい。うちの母親も高齢だが、植物を育てるのが長生きの秘訣なので、例えば、両国に行って川沿いの1坪の自分の花壇を愛でて、その近くにカフェを作り散歩に来た人と交流ができるとか。街角に大きな公園や施設を作るのではなく、小さな花壇をみんなで作っていくのは、狭地型の都市型農園というか、菜園、花壇というか。そういうものはぜひ皆さんの力で実現できるのではないかと思っている。そこに子どもが土に触る経験をすれば、世代間交流もできて素晴らしいのではないかと思う。

**区長** それぞれ本当に貴重なご意見をいただきました。最初の段階では、先ほどの小林先生のお話にもあった、孤立、孤独化という対策の話が一つ。それから、その中での居場所づくり。憩いの場やふれあいの場、交流の場などの場をしっかりと作っていき、そこに人が集まって来るといふこの考え方、この10年という中でも非常に重要な視点であると感じた。

また、土に触れたり、できた食材をみんなで楽しむという農業、農園、今で言う水耕栽培など様々なことがあると思うが、こんなことを一つの切り口に考えてみたらどうかというお話もいただいた。そして、今たくさんお話を聞いて、ちょうどこの10年の中で、今我々がやっている協治(ガバナンス)の取組、または「人つながる墨田区」という取組の中に生まれ育った子どもたちが、10年経ったらどうなっているのかを考えながら、夢実現の取組をやっている。今、4つの取組の話、10年後というものをお伺いし、ご意見をいただくことができた。それぞれ考えながら、一つの事業や施策というところで、また考えていきたいと思う。

**区民E** 今回のテーマでは、やはり情報を広く知らしめる、それも広い情報、偏っていない情報を広く知らしめていただき、我々としては、それを取りに行くということが重要だと思う。そ

のうえで、より広く意見を聞く、あるいは意見を言うそして十分に話し合う。これが良いガバナンスが行えることの大前提である。まさにこれをどう行うかということ、今回、皆さんが問題意識を持ってやっていけたらいいと思う。それが知るつながる行動するすべてに当てはまると私は考える。これを民主主義というか、今、我々の中で非常に大事なことで、結局民主主義とは言いながら、最終的な手段は多数決による決定になるが、そうすると民主主義だからいいじゃないかといって、偏った情報や限られた参画であると正しく進められない。今我々が生きている社会においては、民主主義の大前提がきちんと行われることが大事なことである。私は今日、これを再認識することができて、非常によかった。広い情報、様々な情報を広く、知らせていただいて、あるいは知ろうとすること、そして、広く意見を聞くこと、もちろん少数意見も十分に耳を傾けて、とことん話し合うと、改めてそういう当たり前のことを認識できた。

**区民F** 先ほどの区長の、コミュニケーションを諦めないというお話にとっても感銘を受けた。墨田区で紙芝居屋をしているが、このまん延防止の措置が取られているご時世で、紙芝居屋としての仕事は自粛させていただく時も多い。アナログ人間な自分がデジタルも活用しながらも、やはり力を込めて言いたいのが、リアルで人と人がつながる力である。目線を合わせて、その人の思いを感じ取りながら、息遣いを感じ取りながら、言葉によらないものが伝わり合う空間だと思っている。紙芝居は演目を楽しんでいただくのもそうであるが、私は共感する場の提供だと思っている。下町の伝統的な街角の大衆文化、何を見たか忘れてしまうけれども、みんながいろんな方と心を寄せ合い、お菓子を食べながら、世代を越えて楽しみ合う文化だと思っている。

もう一つ、紙芝居は、絵と声で伝わるメディアだと思っている。それは多文化共生でもお役に立てると思っている。目の見えない方は声で、耳の聞こえない方も絵を見て、外国の方も、言葉がわからなくても、何かが伝わる英会話と言っているが、それを誰かが発信し、また受け取り合うという共有の場を提供できるとしている。イベントごとだけではなく、街角にまたそういう文化を再生したい。また、学校に行きアウトリーチをして、私が見せるだけではなく、子どもたちがその時の思いを自分で伝えるツールとして、また外国の方にも伝え合えるツールとして、墨田で紙芝居を復活させていきたいと思っている。

**区民G** 東向島で子育て支援拠点を運営している。妊娠期から在宅子育てを応援するということで、ママ友スタッフで運営しており、現在、7年目に入った。今回、10年後のすみだということで、まさしく子どもが生まれ育って10年経ったら、小学校4年生になる。この一番大事な時期を、墨田で子育て、親育てをしていけたらどんないいかということを感じてほしい。私は、生まれも育ちも子育ても、今は介護もしているが、全部墨田区だった。墨田のつながる力とか、助け合う力というのは、町会それから地域があっでできていることと実感している。

もともと墨田で生まれ育っていない方が、墨田区に来て、妊娠して、赤ちゃんを授か

り、これから子育てをするというときに、いかに墨田っていいなあと思っていただけるか。そのための情報発信と、切れ目ない寄り添いをもっともっとできる実家のようなお家ができたらいいと思っている。墨田区に引っ越してきてくれたママたちが、子育てをする一番大事な10年を過ごしていただいたら、本当に新しい墨田っ子がずっと定着してくるんじゃないかと思っている。

大きな広場がたくさんある中で、小さい実家のような子育てひろばは、地域ともつながることができる。ありがたいことに、以前、新日本フィルと繋がらせていただき、コンサートも3回開催させていただいた。今コロナで中止中ではあるが、昨年も新日本フィルにご招待していただいた。こういうつながりを、本当に墨田ならではのことができることを、墨田に来た方に、もっともっと知ってもらおうアピールをしていく必要がある。そして、民間だから、ママ友だからできる情報発信の場を区にもお願いしつつ、私たちも地道な行動をしていきたいと思っている。未来、赤ちゃんを産み育ててくださるママの応援をたくさんしたいと考えている。

**パネリスト 久米** 今お話にありました新区民と呼ばれる人をいかに皆さんのコミュニティにうまくひき入れるかという工夫が必要だと思う。私の生まれた頃は、銭湯や商店街があったので、結構簡単だった。そういった経験がない人がマンションに住んで、スーパーやコンビニに行くのでは、なかなか接点がないと思う。だから、これから皆さんに話し合っていていただくテーマで、ぜひそういう人たちを大歓迎する仕組みを考えることが大切だと思う。

また、紙芝居の話もあったが、私も紙芝居世代で、SNSも大切であるが、私が学生によく「どうしてそんなコミュニケーションというか、誰とでもずかずか話すんですか？」と言われるが、それはやっぱり墨田区で育ったから。商店街で「くださいな」なんて言うし、そこに行くまでの間におじいさんおばあさんがいて挨拶して話をしないと、そこを通過できなかつたから。銭湯でも挨拶しなきゃいけない。だから、挨拶が大切。この前、同じ町内に住んでいる人同士で話をしたら、墨田区は挨拶してくれるまちですね、とすごく盛り上がった。ある人は関西から来ていたが、東京に来たら全然誰も挨拶しないため、寂しい。でも押上の辺りに住んでみたら、みんな挨拶してくれると言っていた。子育て世代の話が出たが、墨田区で子育てをすると、みんな挨拶ができて、みんなと仲良しになれるというのは、実は私たちからしたら当たり前だけれども、外から見た人、外から来る人にはすごい魅力である。先ほどタウンミーティングのレポートにもあったが、すでにあるコミュニティには少し敷居が高くて入りづらいようなので、そこを何とかうまく融和する仕組みができたらいいなと思う。このタウンミーティングでそういう仕組みができることを期待している。

**パネリスト 鎌形** 今、本所地域プラザの周りは猛烈な勢いでマンションができています。プラザへも若いお母さんたちに随分来てもらっている。区長にもお聞きしたいのは、本所地域プラザや八広地域プラザまで来るのは大変だという方、そういう方たちをどういうふうに

拾っていくのか。子育てひろばのような小さなところもどんどん増やしていく必要があると思う。そして10年後、その子たちが物心着いたときに、ここから引っ越したくないと思ってくれるようなまちにしていければなどいつも思っている。

**区長** ここから引っ越したくなくなる、それはまさに目指している、暮らし続けたいまちというところ。いろいろなデータを見たりしていくと、複雑な経過もある。生まれてからずっと暮らし続けて欲しいなと思いつつ、昨今、コロナにおいてということだと思うが、23区が初めて転出超過になったというニュースもあった。やはり墨田区の事情としては、どうしても住宅事情で、2人目の子どもが生まれた際に、もう少し広い郊外のご自宅を探していこうという動きもある。その中で、いかに魅力的な墨田区として、暮らし続けていただくかというのは行政としての課題でもある。その中で今お話があったような、実家のようなお家や広場がいろいろな場所にあること、そして孤独・孤立、子育てにかかる相談が、解決まではいなくても話ができる場所があること、現実問題としても10年後も、そのような場をしっかりと用意することは行政の役割だと思う。

また、紙芝居も一つのツールとして、子どもたちが成長過程の中で、小さい頃紙芝居を見たことがある、この人がいてこんな話をしてくれたというような思い出が何かに生きていくということだと思う。魅力的なまちになるため、社会福祉協議会の居場所の話であったり、子育ての様々なメニューを考えたりということは、現場の状況を見ながら、絶えずやっていかないといけないと思っている。

**パネリスト 小林** 少し長い目で見ると、多分この20年30年の間に、すみだのまちは大きく変わったと思う。この変わったというのは決して悪いことではなく、例えば、かつては錦糸町の再開発を手がけたし、それからスカイツリーを誘致して、ここも活性化した。それから、踏切を解消する連続立体交差事業というのも墨田区がこの流れを進めてきた。その中で、新しいまちづくりが生まれて、かつてだったらちょっと想像できないような高いビルができて、新しい方々が入居されている。そういう中で、自分の事業としてはコンサートホールを運営しているので、多くの人に来てやすいようにするためにはどうすればいいかということを考える。そうするとやはり、子育て支援のコンサートになる。お金はいい、その代わりホールは大きく開放して、出入り自由、子どもが泣き叫んでもOKにする。ベビーカーも中に全部入れて、ちゃんと管理する。そして賛育会の方にもご協力をいただいて、トークもする。先ほど孤独・孤立化の話をしたが、高齢者の人の孤独・孤立化も大きな問題であり、子育て中の方も実は孤独・孤立化してるという状況がかなりある。そのため、子育て施策そのものではないかもしれないが、行政の持っている総合性というか、いろいろな事業の中で、少しでもそういう状況をこの文化事業においてどうケアできるかを考えていくべきだと思う。決して縦割りになる必要はなく、そういう発想を取り入れていくことが協治(ガバナンス)だと強く思うので、やはり新しいやり方には、新しい発想というものを取り入れていくとよいのではないかと私は思っている。

以上